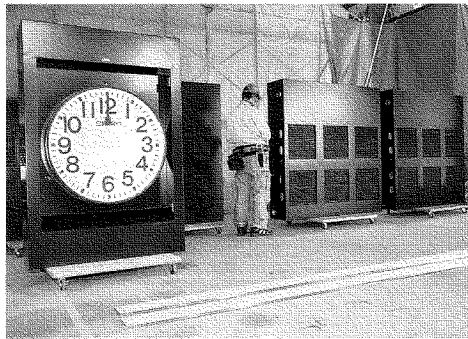


野球場にLEDスコアボード納入



LEDを活用した電光掲示板や屋内外看板などを手がけるタテイシ広美社(府中市河南町1-4、立石克昭社長、電0847-43-4886)はこのほど、LEDを使った電光表示システムのスコアボードを出雲市斐川町の野球場に納入する。写真は、今年3月には尾道松江線大万木トンネルの可変式電光標識も納入した。また近年新事業として取り組んでいる特殊な微細加工を施した導光板「Tレライトパネル」は、交通標識や高速道路に採用されるなど、全国からさまざまな注

Tレライトパネルは全国から受注

タテイシ
広美社
交通標識や高速道路でも採用

文が相次いでいる。

出雲市には一昨年3月、出雲ドーム内に巨大なスコアボードを納入した実績がある。今回の分は11×1.7mで3色表示。得点表示は40cm角で16×16ドットで全角ひと桁か半角ふた桁を表示する。チーム名などは3セットを配置。数字だけでなく文字情報も出すことができる。5月末に完成し、6月に現地に設置する予定。

同様の技術は防災表示板でも活用されており、京都市役所や京都駅前巨大なスクリーンが設置されている。パソコンで入力した情報が音声と文字で表示されるため、TPOに応じた適切な対応がとれると評価が高い。同技術は大万木トンネルの表示板にも使われている。広島ICからFOMA通信でデータを送り、表示を簡単に変更することができる。

またTレライトパネルについては、高速道路では一昨年から、NEXCO西日本と中国日本の安全施設の表示灯を受注している。これは、漏水や熱膨張

などが起こりやすい過酷な状況下でも性能を維持できる優れた製品を納入し信頼を得たことから始まった。広島・兵庫県警の道路標識の設置も今年から本格化している。

立石社長の話「ひたむきに営業を続け、常にニーズに合った開発をしてきただけのこと。LEDには20年以上前から取り組んでおり、多くの失敗から得た独自のノウハウもある。弊社は

情報伝達業としての気概を持ち、社会貢献と、大手のやらないニッチな分野で個別対応していくこと、全国の中小企業とネットワークを構築してアフターケアにも十分な対応をはかることで、全国展開も可能とした。前期売上げは3.5億円、今期同(6月決算)は3.8億19億円を見込んでいる。今後も地域社会に役立つ製品づくりを目指したい。

